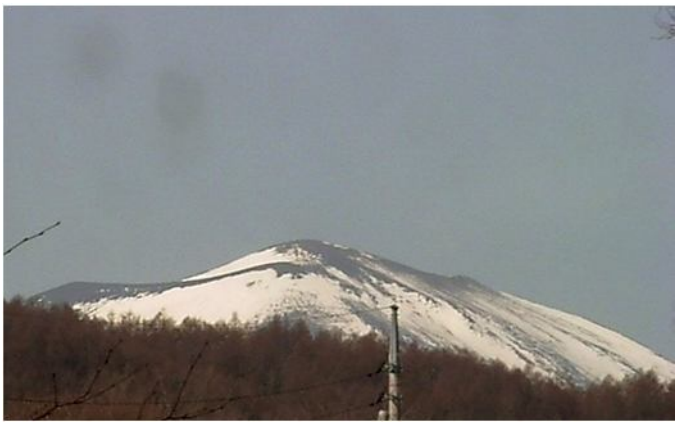
「日々の理科」（第 662 号） 2016（H28),-4,29

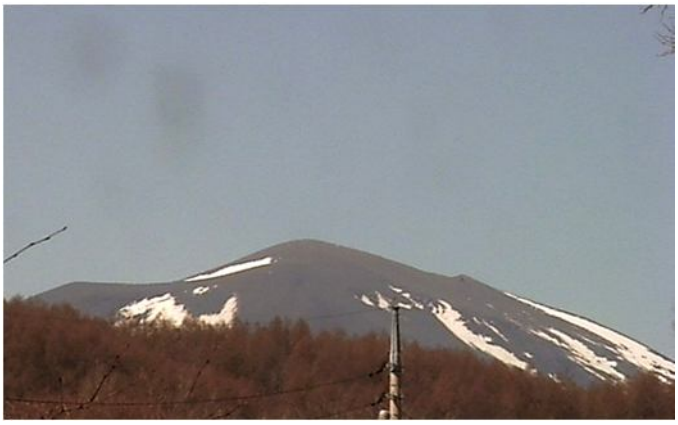
「浅間山再冠雪」

お茶の水女子大学附属小学校　田中　千尋

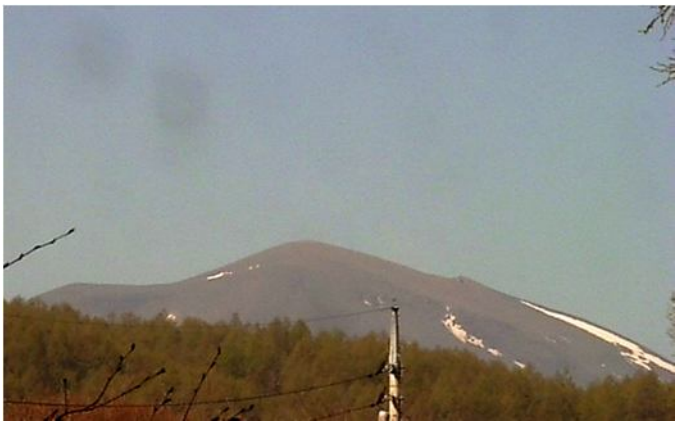
秋の終わり、または冬の始めに、山の山頂付近に積雪があり、それが麓から確認できた場合を「初冠雪」と呼ぶ。主に、富士山や羊蹄山などの独立峰に使われる用語で、浅間山でも毎年話題になる。その後冬の間は、ずっと雪をかぶっているわけだ。



４月１日。やや雪どけの始まった浅間山。

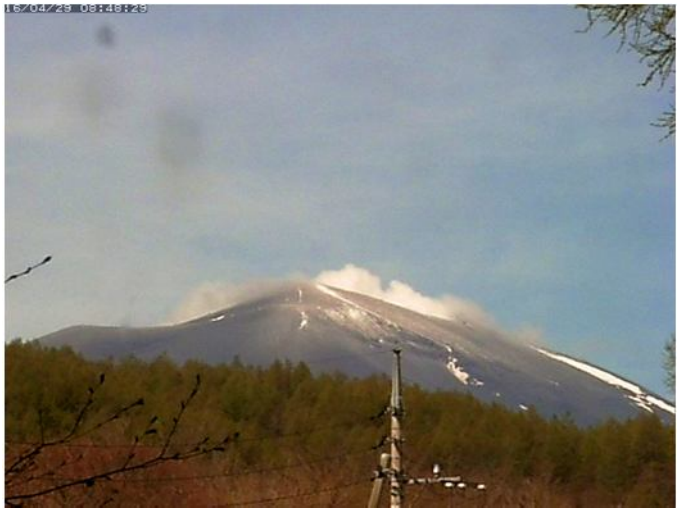


４月１５日。山肌の雪はほとんど消滅し、谷筋に少し残雪が見えるだけとなった。



４月２６日。雪は完全になくなった。手前のカラマツの森も、新緑の色に変化したとわかる。

例年、４月の下旬には、浅間の雪もほぼ消えて、そのまま次の初冠雪まで雪は見られない。しかし、昨夜の低気圧と前線の通過で、山頂付近には再び雪が降った。初冠雪ならぬ、「再冠雪」である。



４月２９日の朝。山頂付近の山肌が、うっすらと白くなっているのがわかる。

カメラをズームにして、山頂付近を写すと、やはり白い。間違いなく「再冠雪」である。この朝、浅間の山頂が見えていたのはほんの 30 分ほどで、残念ながら雲に隠れてしまった。この写真は、上毛新聞社に投稿しておいた。

こうした観測ができるのも、定点カメラを設置した結果である。このカメラは、遠隔操作でズームや角度などを調整可能で、もちろん写真の撮影も可能だ。今後も授業や研究に使い続けたい。